

殺菌剤

イミノクタジン酢酸塩・有機銅水和剤

ベフキノ[®]水和剤

農林水産省登録 第 18088 号

性状：黄緑色水和性粉末 45 μm 以下

毒性：劇物

有効年限：4 年

包装：500g 袋 ×20

有効成分：イミノクタジン酢酸塩・・・・・・・・・・7.0%

8-ヒドロキシキノリン銅 (PRTR・1種)・・・・・・・・50%

その他成分：界面活性剤、鉱物質微粉等・・・・・・・・・・43.0%

ベフキノ[®]はサンケイ化学(株)、日本曹達(株)の登録商標です。

特長

- 広い抗菌スペクトラムのイミノクタジン酢酸塩と保護効果に優れる有機銅の混合剤で果樹の主要病害に対して優れた防除効果を示します。
- 従来の薬剤と作用性の異なるイミノクタジン酢酸塩と耐性菌のつきにくい8-ヒドロキシキノリン銅を効果的に配合してありますので、各種薬剤に感受性の低下した病害に低下した病気に対しても優れた効果を示します。
- 発病前～発病初期に予防的に散布することにより、持続効果が高く、優れた防除効果を発揮します。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	10 アール当たり 使用用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジンを含む農 薬の総使用回数	有機銅を含む農薬 の総使用回数
りんご	斑点落葉病	750～ 1000 倍	200～ 700 ℓ	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	8 回以内 (液剤及び水和剤は 合計 6 回以内 (開花 期以降は 3 回以内)、 塗布剤は 2 回以内)	7 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 4 回以内)
	輪紋病 すす点病 すす斑病 褐斑病、炭疽病							
なし	輪紋病 黒星病 黒斑病	1000 倍		収穫 45 日 前まで	4 回以内			
みかん	灰色かび病 そうか病、黒点病	300 倍	100～ 200 ℓ	収穫 30 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内	3 回以内
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病 黒点病							
麦類 (小麦を除く)	雪腐小粒菌核病 紅色雪腐病	300 倍		根雪前	2 回以内			
小麦	雪腐小粒菌核病 紅色雪腐病	300 倍	100～ 200 ℓ	根雪前	2 回以内	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、散布及び 無人ヘリ散布は 合計 3 回以内、 出穂期以降は 1 回以内)	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内)	

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
- ボルドー液、石灰硫黄剤、ジネブ剤、水和硫黄剤との混用は避けてください。
- りんごに使用する場合は、落花後40日頃までは、さび果を生じることがあるのでこの時期の散布は避けてください。また、樹勢の弱い場合に連続散布すると、生理落葉を助長することがあるので連用は避けてください。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種には注意してください。
- なしに使用する場合は、展葉期の散布は葉害を生じるおそれがあるので、5月下旬までの散布は避けてください。
- 大豆、小豆、えんどうには、葉害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。
- 蚕に対して毒性があるので、桑にはかかわないように注意して散布してください。

安全使用上の注意事項

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して強い刺激性があるんで皮膚に付着しないよう注意してください。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物に関する注意事項

- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用は避けてください。養殖池周辺での使用は避けてください。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。